

人口減少地域での防災対策、 持続可能な地域づくりについて

—和歌山大学はどのように地域を支えるか—



開催日時／平成27年**1月25日**①
13:30~16:30

開催場所／和歌山県立情報交流センター
ビッグ・ユー 多目的ホール
(田辺市新庄町3353-9)

[対象者] 一般市民、行政職員、教育機関関係者



参加費無料
事前申込願います。
(当日受付も可)



和歌山大学では、平成25年に「紀伊半島における防災・減災に関する和歌山大学の方針作成のための有識者会議」を設置し、平成26年1月に提言をいただき、内容を具体化するために検討しています。昨年、和歌山県では2040年の人口推計(国立社会保障・人口問題研究所)が2010年に比べ3割減少し、減少率が全国で6番目に大きいと発表されました。災害ではどこでも高齢者が巻き込まれ、命を亡くしています。このように考えると南海トラフの地震が発生する頃には、少子高齢化でかつ人口が減少している地域を想定しなくてはなりません。現在、各地で実施している防災対策は、高齢者対応の防災だけでなく、持続可能な地域づくりへシフトしていく必要があります。

地元のホームドクターである和歌山大学では、現在の防災対策支援だけではなく、長期的な戦略を伴って教育研究を実施する必要があります。これからの防災対策は高齢者重視で、持続可能な地域振興をしつつ将来の災害に備えていく必要があります。そのためには東日本大震災の被災地の自治体から経験を学ぶことで、事前に備える防災対策だけでなく、持続可能な地域振興、災害を小さくするまちづくりについて学んでおくことが重要です。その経験をもとに人口減少の中で、自分の命を守る地域、災害時の復興が素早く対応できる地域、持続可能な地域振興のできる地域として、被災地の自治体と田辺市の代表者、和歌山県県土整備部のまちづくり担当者とともにパネルディスカッションを実施し長期的な展望の中で考えていきます。



P R O G R A M

プ
ロ
グ
ラ
ム

13:30~ 開会挨拶／和歌山大学 学長 山本健慈

13:35~ 基調講演 「岩手県大船渡市より東日本大震災の経験を和歌山県の皆様へ」

大船渡市 副市長 角田陽介氏

14:25~ 休憩 防災研究成果のパネル展示発表

14:50~ パネルディスカッション

「人口減少時代における長期的な防災戦略をイメージする
—広域自治体・基礎自治体と和歌山大学の役割について—」

【パネリスト】

牧 紀男氏(京都大学防災研究所 教授／和歌山大学防災研究教育センター 客員教授)

角田陽介氏(大船渡市 副市長)

皆川武士氏(和歌山県県土整備部都市住宅局都市政策課 課長)

真砂充敏氏(田辺市 市長)

【コーディネーター】

此松昌彦(和歌山大学防災研究教育センター長／教育学部 教授)

16:25~ 閉会挨拶／和歌山大学 理事・副学長・地域創造支援機構長 平田健正

申込方法 氏名、電話番号、住所、メールアドレス、所属、役職を下記申込書に記入し、FAXにて送信するか、メール、電話にてお申し込みください。

申込期限 平成27年1月19日(月)

申込先 国立大学法人和歌山大学研究協力課
〒640-8510 和歌山市栄谷930 TEL.073-457-7558 FAX.073-457-7550
bousai01@center.wakayama-u.ac.jp

防災・日本再生シンポジウム 参加申込書

※必要事項をご記入の上、1月19日(月)までにFAXにて送信するか、①～⑦の内容をメール、電話にてお申し込みください。

①フリガナ				③ 電話番号	() -
②氏名				⑤ メールアドレス	@
④住所	〒	-			
⑥所属			⑦ 役職		

※このお申し込み情報は本シンポジウム開催の目的以外では使用しません。